

テーマ：聖書の教えている霊的リーダーとはどのような存在か

※1 コリント 11:1

「私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。」

「模範は教えよりも雄弁に語り、生きた実践的な信仰は議論や巧みな言葉よりも人に大きな影響を与える。」(アーチボルド・アレキサンダー)

○監督とその資格②：ひとりの妻の夫である(2b)

※テトス 1:5-6

「私あなたがたをクレテに残したのは、あなたが残っている仕事の整理をし、また、私が指図したように、町ごとに長老たちを任命するためでした。それには、その人が、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、その子どもは不品行を責められたり、反抗的であつたりしない信者であることが条件です。」

※1 テモテ 3:12

「執事は、ひとりの妻の夫であつて、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。」

●ひとりの妻の夫であること：考えられてきた四つの可能性

1) 監督は結婚した男性でなければならない

※1 コリント 7:8

「次に、結婚していない男とやもめの女に言いますが、私のようにしていただけるなら、それがよいのです。」

※1 コリント 7:32-34

「あなたがたが思い煩わないことを私は望んでいます。独身の男は、どうしたら主に喜ばれるかと、主のことに心を配ります。しかし、結婚した男は、どうしたら妻に喜ばれるかと世のことに心を配り、心が分かれるのです。独身の女や処女は、身もたましいも聖くなるため、主のことに心を配りますが、結婚した女は、どうしたら夫に喜ばれるかと、世のことに心を配ります。」

2) 監督は一人以上の妻を同時に持つてはならない

3) 監督は生涯一人の妻だけを愛する者でなくてはならない

※ローマ 7:2-3

「夫のある女は、夫が活着ている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。ですから、夫が活着ている間に他の男に行けば、姦淫の女と呼ばれるのですが、夫が死ねば、律法から解放されており、たとひ他の男に行つても、姦淫の女ではありません。」

※マラキ 2:16

「『わたしは離婚を憎む』とイスラエルの神、主は仰せられる…」

[相手が不貞を働いた場合：マタイ 5:32；相手が未信者で自分を捨てて離れていく場合：1 コリント 7:15]

4) 監督は夫婦関係や性的なきよさに関して_____を保つ者でなくてはならない

※エペソ 5:25-30

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。私たちはキリストのからだの部分だからです。」

※ローマ 5:7-8

「正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人がいるいはいるでしょう。しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」

「夫は妻の人柄に応じて愛するようにと命じられているわけではありません。夫が妻を愛するのはそれが神の御心であると命じられているからです。」(ジョン・マッカーサー)

※エペソ 5:22,24

「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。…教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。」

※1 テサロニケ 4:3

「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け…」

○監督とその資格③：自分を制する(2c)

「自制とは自身の願いや欲求、強い衝動、感情や情熱を管理したり、慎重に制御することです。それは私たちが“ノー”と言うべきときに“ノー”と言うことです。」(ジェリー・ブリッジス)

※1 テサロニケ 5:6,8

「ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていきましょう。眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶるとしてかぶって、慎み深くしていきましょう。」

※箴言 25:28

「自分の心を制することができない人は、城壁のない、打ちこわされた町のようなのだ。」

※ガラテヤ 5:22-23

「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です…」

○まとめ